

開講年度	毎年度	必修・選択必修・選択	選択	プログラム区分	E D
時間割番号	E318	推奨受講年度	1～3 年目	時間数	2
担当講師	小田敬美 (ODA Takayoshi) / 権 奇法 (Kwon Gibob)				
研修題目					
個人情報保護 (Protection of Personal Information)					
研修のキーワード					
個人情報 (personal information)、要配慮個人情報 (special care-required personal information)、個人識別符号 (individual identification code)、機微情報 (sensitive information)、匿名加工情報 (anonymously processed information)、個人情報保護委員会 (Personal Information Protection Commission)					
研修の目的					
大学において教育・研究を行う際に配慮することが必要な個人情報等につき、その入手・利用・廃棄に関するルールを学ぶ。					
研修の到達目標			(3)機微情報など個人情報保護に関連する概念の意義と具体例を説明することができる。		
(1)個人情報の意義と具体例を説明することができる。			(4)個人情報保護のための実践的スキルを示すことができる。		
(2)要配慮個人情報や個人識別符号の意義と具体例を説明することができる。					
研修の概要					
大学の業務では、教育の場面での学生に関する情報はもちろん、そのほかにも、高大連携事業・公開講座・社会調査・フィールドワークなど、研究や社会貢献に関わる場面でも個人情報に接する機会が多くあります。そして、防犯カメラやICT機器の高度利用により、その範囲は大きく広がっています。					
この研修では、個人情報の取扱いに関するコンプライアンス体制の構築と実践が大学に対する社会的要請の一つであることに鑑み、個人情報の種類とその取扱方法について学びます。また、学生が研究活動や課外活動を行う際に配慮すべき個人情報保護の方法や情報セキュリティについても学びます。					
学習項目					
1. 個人情報保護の意義と目的			4. 個人情報等の利活用方法		
2. 個人情報の種類と内容			5. 個人情報保護のためのスキル (情報セキュリティを含む)		
3. 個人情報・個人識別符号等の具体例			6. 個人情報保護の隣接領域と関連事項		
研修時間外に求められる課題に関する情報					
受講者が種々の業務で扱う個人情報等の洗い出し(業務上の各場面でどのような個人情報に接するかを考え、書き出してくること)					
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書)					
連絡先		小田敬美 oda-law@ehime-u.ac.jp / 権 奇法 kwon.gibob.mx@ehime-u.ac.jp			
参照ホームページ					
その他					

開講年度	毎年度	必修・選択必修・選択	選択	プログラム区分	R D
時間割番号	R310	推奨受講年度	1～3 年目	時間数	4
担当講師	吉松 靖文 (Yoshimitsu Yasufumi)、鴛原 進 (Oshihara Susumu)				
研修題目					
教育学部附属校園の保育・授業と学校経営 (education for young children, teaching in schools and school management on the faculty's school)					
研修のキーワード					
附属校園 (faculty's school)、授業 (teaching in schools)、学校経営 (school management)					
研修の目的					
教育学部の教員として、教育学部附属校園における保育・授業の様態を理解し、かつ今後の附属校園の学校園経営・経営方針を学ぶ。					
研修の到達目標					
(1) 附属校園における保育・授業の様態を説明することができる。 (2) 附属校園の学校園経営・経営方針を説明できる。			(3) 附属校園における保育・授業や学校経営・経営方針から自らの研究シーズを見つけることができる。		
研修の概要					
教育学部附属校園における保育・授業を観察し、教育実践成果について学習する。 また、附属校園が独自に立案し、実施している校園における研究テーマと、実際に行われている授業実践とを対比し、今後の附属校園における研究の方向性を知り、学部教員が参画できる内容について考える。 さらに、参観後に附属校園長の代表との協議を行い、附属校園における課題を共有し、研究シーズに気付くことができる。 なお、附属校園は、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校とする。					
学習項目					
1. 教育学部附属校園長による講話 2. 附属校園における保育・授業の観察 3. 附属校園が自ら設定した研究の紹介			4. 共同研究参画にあたっての留意点と研究テーマなどに関する協議 5. 附属校園のいずれか1校を選び、その他の校園と比較しつつ、レポートの形でまとめる		
研修時間外に求められる課題に関する情報					
附属校園のいずれか1校を選び、その他の校園と比較しつつ、レポートの形でまとめる。					
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書)					
なし					
連絡先	鴛原進 oshihara@ed.ehime-u.ac.jp				
参照ホームページ					
その他	毎年、内容は同じであるため、複数回の受講を認めない。また、初任1年目の受講を推奨する。 担当講師は、合同研修会副会長 (附属校園長) と合同研修会運営委員とする。				

開講年度	毎年度	必修・選択必修・選択	選択	プログラム区分	RD
時間割番号	R311	推奨受講年度	1～3 年目	時間数	2
担当講師	統括研究コーディネーター				
研修題目					
教育学部附属校園による共同研究の手法と内容（Joint research with faculty's school）					
研修のキーワード					
附属校園(faculty's school)、研究手法(research techniques)					
研修の目的					
教育学部の教員として、教育学部附属校園における共同研究の成果を理解し、かつ今後の共同研究の推進に必要な事柄を学ぶ。					
研修の到達目標					
(1) 附属校園における研究の目的を説明することができる。			(3) 各研究部における研究の推進方法を説明できる。		
(2) 学部附属であることの価値を活かせる研究の方法論を説明できる。			(4) 附属校園における研究を開始するための手法・手順を説明できる。		
研修の概要					
教育学部の教員と附属校園の教員による共同研究の成果発表を視聴し、その成果について学習する。					
また、附属校園が独自に立案し、実施している校園における研究テーマと、それらの研究の進捗状況を知り、学部教員が参画できる内容について理解する。					
さらに、各部会ごとに附属校園における課題を共有し、研究シーズに気づき、研究の開始にあたり、その手法について学習する。					
なお、部会として、教育経営、国語、社会、数学、理科、生活科・総合的学習、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、幼児教育、特別支援教育、英語、養護を設けているので、受講者はこれらの部会のいずれかに所属することが求められる。所属する部会は受講者が所属する課程・コースと関係が深い部会とすることとし、内容を深めるため、継続して同じ部会に所属することが望まれる。					
学習項目					
1. 教育学部長講話			4. 各部会における共同研究の紹介（各部会ごとに開催）		
2. 学部と附属校園による共同研究による成果発表（おおむね2件）			5. 共同研究参画にあたっての留意点と研究テーマなどに関して、統括研究コーディネーターと協議する		
3. 附属校園が自ら設定した研究の紹介					
研修時間外に求められる課題に関する情報					
なし					
参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）					
なし					
連絡先	統括研究コーディネーター				
参照ホームページ					
その他	毎年、成果発表の内容は異なるため、複数回の受講を認めることとし、そのたびに受講時間数を積み上げることができる。 教育学部に所属する者は、この RD プログラムの参加を必須とする。				

開講年度	毎年度	必修・選択必修・選択	選択	プログラム区分	R D
時間割番号	R316	推奨受講年度	1～3年目	時間数	4
担当講師	統括研究コーディネーター				
研修題目					
愛媛教育研究大会での研修（Observation of Seminars are held on the faculty's school）					
研修のキーワード					
附属校園(faculty's school)、保育(education for young children)、授業(teaching in schools)、学校経営(school management)					
研修の目的					
教育学部附属校園における研究会に参加し、保育・授業や保育研究・授業研究の様態を理解し、今後の附属校園における研究と自身の研究との関連を学ぶ。					
研修の到達目標					
(1) 附属校園における保育・授業の様態を説明することができる。			(3) 附属校園における保育・授業や学校経営・経営方針の実現を自らの		
(2) 附属校園の学校経営・経営方針を説明できる。			の研究を通して図れるよう方策を見つけることができる。		
研修の概要					
教育学部附属校園における研究会における保育・授業を観察し、その後の保育研究・授業研究の方法について学習する。					
また、附属校園が独自に立案し、実施している校園における研究テーマと、実際に行われている保育実践・授業実践とを対比し、今後の附属校園における研究の方向性に自らの研究が活かせるよう方策を考える。					
研究会に併せて行われる講演会に参加し、次の教育課題を理解し、新たな研究シーズに気付くことができる。					
なお、附属校園は、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校とする。					
学習項目					
1. 附属校園における保育・授業の観察			4. 共同研究に向けた具体的な方策を見つける		
2. 附属校園における保育・授業に関する保育研究・授業研究会の観察			5. 保育研究会・授業研究会または講演会の内容と自らの研究		
3. 附属校園が自ら設定した研究の報告を知る			の関連についてレポートの形でまとめる		
研修時間外に求められる課題に関する情報					
附属校園のいずれか1校を選び、その他の校園と比較しつつ、レポートの形でまとめる。					
参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）					
なし					
連絡先	統括研究コーディネーター				
参照ホームページ					
その他	附属校園により内容が異なるため、1年間に複数の研究会への参加を認める。 毎年、内容が異なるため、複数回の受講を認める。また、初任1年目は、受講を強く推奨する。				

開講年度	毎年度	必修・選択必修・選択	選択	プログラム区分	E D
時間割番号	E315	推奨受講年度	1～3 年目	時間数	2
担当講師	小林 直人 (Naoto KOBAYASHI)				
研修題目					
アンサーパッド(クリックカー)を用いたアクティブ・ラーニング入門 (an introduction to Active Larning)					
研修のキーワード					
アクティブ・ラーニング(active learning)、レスポンス・アナライザ(response analyzer)、大人数講義(large scale lectures)、医学教育のグローバル・スタンダード(global standard of the medical education)					
研修の目的					
大人数の講義でも学生の授業への参加を促し能動的に学ぶことを促すことができる授業方法として、レスポンス・アナライザ(アンサーパッド、クリックカー)を用いた事例を紹介する。また、医学教育のグローバル・スタンダードが求めているアクティブ・ラーニングの考え方全般についても学ぶ。					
研修の到達目標					
(1)大人数講義の長所と短所を挙げるができる。 (2)アクティブ・ラーニングの手法を用いた授業の流れを説明できる。 (3)アクティブ・ラーニングの手法を用いた学生参加型の授業を実践できる。 (4)医学教育のグローバル・スタンダードが求める授業形態を概説できる。					
研修の概要					
医学教育のグローバル・スタンダードでは、一方的に講義を聴くタイプの授業ではなく、アクティブ・ラーニングの手法を用いた学生参加型の授業を実践していることが求められる。愛媛大学医学部でもそのためのレスポンス・アナライザ(アンサーパッド、クリックカー)を購入し、これまでにない授業を展開することを目指している。本講習では、アンサーパッド(クリックカー)を用いた授業を実際に体験し、医学教育においてどのような内容に適した授業スタイルなのかを考え、さらに自らの授業で実践できるようになることを目指す。					
学習項目					
1. 大人数講義の長所と短所 2. 大人数講義におけるアクティブ・ラーニングの実例 3. アクティブ・ラーニングを用いた授業の長所と短所 4. 医学教育のグローバル・スタンダードが求める授業形態					
研修時間外に求められる課題に関する情報					
予め「アクティブ・ラーニング」や「ピア・インストラクション」をキーワードとしてネット上で検索するか、または下記の文献によって、基礎的な情報を得ておくことが望ましい。					
参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）					
高田和生:『アクティブラーニング:主体的で効果的な学習を可能にする授業とは』、日本内科学会雑誌、104(12):2498-2507, 2015 蔣妍:『大人数講義で行うアクティブラーニング ピアインストラクション』、看護教育、55(5):398-404, 2014 小林、永井、山脇:『医学教育のトピックス ～アクティブ・ラーニングのすすめ～』、愛媛大学、36(1), 2017					
連絡先	小林直人 naoto@m.ehime-u.ac.jp				
参照ホームページ	http://www.kals.c.u-tokyo.ac.jp/dalt/15-minutes/				
その他	夏期休業期間中に重信キャンパスにおいて開講する。日程は後日、メール・掲示等で周知する。				

開講年度	毎年度	必修・選択必修・選択	選択	プログラム区分	E D
時間割番号	E316	推奨受講年度	1～3 年目	時間数	2
担当講師	小林 直人 (Naoto KOBAYASHI)				
研修題目					
医科共用試験CBTのための多肢選択型試験問題の作成入門 (an introduction to multiple-choice exams)					
研修のキーワード					
CBT (computer-based test)、EMI問題 (exams with expanded multiple items)、医科共用試験 (common achievement test for medical students)					
研修の目的					
医学科4回生が受験する医科共用試験CBTのための作問を通して、良質な多肢選択型試験問題を作成するための基本的な技法を学ぶ。 また、卒業試験や国家試験も含めて、最近の多肢選択型試験問題 (extended matching items [EMI]、など) の傾向について理解する。					
研修の到達目標					
(1) 客観的試験問題の種類を列挙できる。 (2) 多肢選択型試験問題の長所と短所を指摘できる。 (3) 多肢選択型試験問題、特にEMI形式の問題を作成できる。 (4) 医科共用試験 (CBT + OSCE) の意義を説明できる。					
研修の概要					
医学科4回生が受験する医科共用試験では、技能と態度を測定する臨床実技試験 (OSCE) とならんで、知識や理解力を測定ためにコンピューターを用いて解答するCBTが行われている。共用試験に合格することは、医学生が臨床実習を行う上での医師法上の違法性を阻却する事由の一つと考えられている。 共用試験CBTは出題数が320問、解答時間が6時間にわたる試験であるため、出題形式に制約が多い。本講習では、医科共用試験の意義やその中におけるCBTの特徴、さらに実際に良問を作成する上での注意事項を学び、学んだ知識を共用試験の作問だけではなく各講座が作成する定期試験の問題作成にも活かすことを目指している。					
学習項目					
1. 医科共用試験の意義 2. 医科共用試験のCBT 3. CBTの問題形式 4. EMI問題 (exams with expanded multiple items) の形式 5. より良い問題にするためのブラッシュ・アップ 6. 客観的試験問題の長所と限界					
研修時間外に求められる課題に関する情報					
医学科教員であれば、共用試験の基礎知識を得ておくことが望ましい (医療系共用試験実施評価機構のウェブサイトを参照のこと : http://www.cato.umin.jp/)。					
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書)					
連絡先	小林直人 naoto@m.ehime-u.ac.jp				
参照ホームページ	http://www.cato.umin.jp/				
その他	4月に重信キャンパスにおいて開講する (医科CBTの問題作成説明会を兼ねる)。日程は後日、メール・掲示等で周知する。 看護学科や他学部の教員も歓迎します。				

開講年度	毎年度	必修・選択必修・選択	必修	プログラム区分	ED		
時間割番号	E314	推奨受講年度	1～3 年目	時間数	7		
担当講師	武部博倫(Takebe Hiromichi)、青野宏通(Aono Hiromichi)、山室佐益(Yamamuro Saeki)、小林千悟(Kobayashi Sengo)、水口 隆(Mizuguchi Takashi)、阪本辰顕(Sakamoto Tatsuki)、他多数						
研修題目 機能材料工学科新入生合宿研修							
研修のキーワード 授業参観 (classroom observation)、グループ学習 (group study)、履修指導 (course guidance)							
研修の目的 新入生を対象にする合宿研修に参加し、他の教員の授業を参観することにより、様々なタイプの授業に触れ、観察者各自が自分の授業をよりよくするためのヒントを得て、授業能力を高めることを目指す。 同僚教員が授業を参観し、そこでの観察記録を基に授業担当者と議論しながら、共同で授業改善に取り組む。							
研修の到達目標 (1) 同僚教員の授業を参観することで、自身の授業へのヒントや改善策を得ることができる。 (2) 同僚教員の授業を観察することで、授業の良い点、改善点を客観的に説明することができる。			(3) 同僚教員を効果的に支援することができる。 (4) 同僚教員からのコメントを客観的に読み取ることができる。 (5) 同僚教員と共同で有効な授業の改善策を見い出すことができる。				
研修の概要：以下の内容に参加する。(注：上付き文字については「その他」の欄参照のこと) <table><tr><td><1 日目 (土曜日)> 10：30 集合 (班分け、日程説明、引率者紹介) 11：00 出発 (バス) 12：00 到着後オリエンテーション・Ice Breaking 12：30 昼食 (1.6h)*2 13：30 機能材料工学入門(1h)* 14：00 大学での学び(1h)*1 15：00 先端研究とプレゼンテーション(1h)*1 16：00 宿泊棟へ移動 16：15 BQ 夕食 19：15 入浴 20：45 材料懇談会 (材料概論とデモ実験) (グループ別学習、4 グループ、含教員・院生補助) (1.5h)*2 22：00 就寝</td><td><2 日目 (日曜日)> 06：00 起床 07：00 朝の集い・清掃 08：30 出発 10：30 工場 (or 別子銅山記念館) 見学 12：00 出発 13：30 愛媛大学到着・解散</td></tr></table>						<1 日目 (土曜日)> 10：30 集合 (班分け、日程説明、引率者紹介) 11：00 出発 (バス) 12：00 到着後オリエンテーション・Ice Breaking 12：30 昼食 (1.6h)*2 13：30 機能材料工学入門(1h)* 14：00 大学での学び(1h)*1 15：00 先端研究とプレゼンテーション(1h)*1 16：00 宿泊棟へ移動 16：15 BQ 夕食 19：15 入浴 20：45 材料懇談会 (材料概論とデモ実験) (グループ別学習、4 グループ、含教員・院生補助) (1.5h)*2 22：00 就寝	<2 日目 (日曜日)> 06：00 起床 07：00 朝の集い・清掃 08：30 出発 10：30 工場 (or 別子銅山記念館) 見学 12：00 出発 13：30 愛媛大学到着・解散
<1 日目 (土曜日)> 10：30 集合 (班分け、日程説明、引率者紹介) 11：00 出発 (バス) 12：00 到着後オリエンテーション・Ice Breaking 12：30 昼食 (1.6h)*2 13：30 機能材料工学入門(1h)* 14：00 大学での学び(1h)*1 15：00 先端研究とプレゼンテーション(1h)*1 16：00 宿泊棟へ移動 16：15 BQ 夕食 19：15 入浴 20：45 材料懇談会 (材料概論とデモ実験) (グループ別学習、4 グループ、含教員・院生補助) (1.5h)*2 22：00 就寝	<2 日目 (日曜日)> 06：00 起床 07：00 朝の集い・清掃 08：30 出発 10：30 工場 (or 別子銅山記念館) 見学 12：00 出発 13：30 愛媛大学到着・解散						
学習項目 1. 授業担当者との事前面談(想定時間:30 分) 2. 授業観察の実施 (授業観察の記録の記入) 3. 授業担当者との事後面談(想定時間:40 分) 4. 授業参観記録の校正・提出(想定時間:20 分)			4. 観察者と事前面談(想定時間:30 分) 5. 授業実施/観察者による記録 6. 観察者と 事後面談(想定時間:40 分) 7. 授業自己分析記録の執筆・提出(想定時間:60 分)				
研修時間外に求められる課題に関する情報 「授業参観記録シート」「授業自己分析記録シート」の提出。 上記シートはテニユア・トラック制度ホームページからダウンロードできる。 http://ts.adm.ehime-u.ac.jp/ed/2013/07/post.html							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書) 「愛媛大学FDハンドブック：もっと！！授業をよくするために」 第一巻 「愛媛大学版大学での学び入門」							
連絡先	青野宏通(学科長) aono.hiromichi.mf@ehime-u.ac.jp						
参照ホームページ	なし						
その他	ED 必修「授業参観」3 時間*1 及び ED 必修「同僚による授業参観」4 時間*2 に相当する。「授業参観記録シート」「授業自己分析記録シート」を教育企画室へ提出する必要がある。						